



発行所 (株)舞鶴市民新聞社 〒624-0905 舞鶴市福来912-1 電話 0773-78-2055 ファックス 0773-77-1750 郵便振替口座 01000-4-42544

iDeCo 京都北部信用金庫 個人型年金プラン iDeCo(個人型確定拠出年金)は3段階の税制優遇メリットを享受できます。①掛金は全額所得控除の対象となります。②運用時は運用益非課税となります。③受給時は公的年金等控除または退職所得控除の対象となります。地域元氣宣言の京都北部信用金庫 URL http://www.hokuto-shinkin.co.jp

# 事業推進が困難に

## 事業会社が来月にも解散手続きへ

喜多の舞鶴21ビルで13日、同地区で計画中のパーム油バイオマス発電所建設について、地元住民と、事業者、市の3者による公開協議が開かれた。会議の中で市は、6月中旬に新たなオーナー会社が見つからない場合、計画の事業主体である「舞鶴グリーン・イニシアティブス合同会社(MGI)」の清算手続きに入ると、現オーナー会社のアンブ社から連絡があったと発表した。MGIは再生可能エネルギー固定価格買取制度の認定を受けており、同社の清算に伴って認定は消失する。これにより、事業の推進が困難な状況であることが鮮明になった。

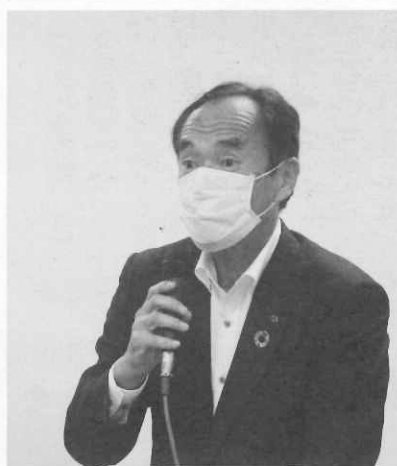


公開協議を熱心に聞く参加者ら

計画は喜多と舞鶴港喜多ふ頭の府有地計約3.8畝に、バイオマス発電所を建設するというもの。再生エネルギー分野における世界最先端企業であるアンブ社の日本法人が出資し設立されたMGIが事業主体となり運営する予定だった。発電所の最大出力は66メガワットで、パーム油によるバイオマス発電所で国内最大規模となる。年間8600時間の稼働で生まれた電力は関電に売電するといひ、一般家庭約12万世帯の電力に相当する規模になる。

# 晴れなかつた住民の不安

一方、住民側も緻密な計算に基づいた主張を展開。双方の立場の違いは終始明白で、およそ3時間に渡った協議など、数字を挙げての丹念な説明が繰り返された。



市の対応を説明する堤副市長

「舞鶴西地区の環境を考えると、先行して稼働していた福知山市での公害事例が紹介された。セミナー開催以後、地元住民らが組織する「舞鶴西地区の環境を考える会」が発足。地元の喜多自治会環境保全委員会などと連携し、様々な取り組みを展開。4月には「建設反対住民アンケート調査結果」を市長に提出し、「アンケート結果が示す通り、住民のほぼ全員が反対だ」と訴えた。

公開協議にMGIからの出席はなかったが、日立造船の担当者が懸念されている公害への対策はもとより、改めて同計画が地元経済に及ぼす好影響を「エコ・ポート・タウン構想」として紹介す



公害対策について説明する 日立造船の担当者

同計画が持ち上がった当初、地元住民と事業者との間に目立った軋轢はなかった。日立造船の担当者は「2018年7月に開催した最初の説明会では、大きな反対もなく概ね賛

「関連する寄稿文を2面に掲載」



データを示し説明する大西委員長

# 市長の姿勢に 疑問の声も

公開協議開催には紆余曲折があった。当初、5月30日に説明会を開催する予定だったが、市が急ぎよ会議を非公

「関連する寄稿文を2面に掲載」